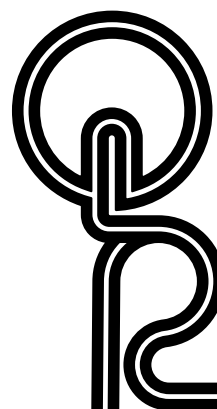


QR Newsletter

第四紀通信

Vol. 9 No. 1, 2002



モンゴル北部Dugen断層の1905年断層活動によるキルギスの古墳(約1千年前)の破壊と変位。断層は大規模な雁行亀裂帯として現れ、一つの開口亀裂が石を円形に並べて作られた古墳を変位・陥没させている。
山崎晴雄 撮影

Vol. 9 No. 1		February 1, 2002	
地球惑星科学関連学会 2002 年 合同大会のお知らせ	2	マスターモデルに関する研究」 シンポジウムのお知らせ	9
Barbados 2002 International Conference の案内 (第 1 報)	6	Tidal Dynamics and Environ- mental Responce 国際会議の お知らせ (第 1 報)	10
第 1 回高精度 14C 年代測定研究 委員会開催のお知らせ	9	研究連絡委員会報告	12
「地震災害軽減のための強振動予測		会員消息	14

◆ 地球惑星科学関連学会 2002 年合同大会のお知らせ

地球惑星科学合同大会運営機構
地球惑星科学関連学会連絡会ニュース No. 24 (2001 年 12 月) より

- 目次 -

- § 1 合同大会案内サマリー・各種登録日程, お問い合わせ先, その他
- § 2 セッション案内
- § 3 個人情報登録
- § 4 参加登録, 予稿集原稿投稿, 宿泊予約 (料金)
- § 5 運営機構からのお知らせ (展示・会合のお申込等)

§ 1 合同大会案内サマリー・各種登録日程

- 会期: 2002 年 5 月 27 日 (月) ~ 31 日 (金)
(5 月 26 日 (日) 青少年セミナー)
- 会場: 国立オリンピック記念青少年総合センター
- 各種受付開始日・締切日:

	受付開始日	受付締切日
予稿集 原稿投稿	2002/1/10(木)	早期〆切: 2002/2/20(水)
		最終〆切: 2002/2/28(木)
大会参加 登録事前 申込		2002/3/29(金)
宿泊予約		

- お申し込み後の日程:

請求書発送	2002/4/10(水) 迄に完了	事前申込者 のみ
支払締切日	2002/4/26(金) 厳守	郵便振込
プログラム ・予稿集 C DROM・名 札発送	2002/5/20(月) 迄に完了	入金確認者 のみ

- 大会ホームページ:
2002 年合同大会に関する情報および各種登録ページが置かれています。

詳しくは次のホームページを是非ご覧下さい。変更内容の情報は随時更新します。(変更内容のチェックもお忘れなく。)

<http://www.epsu.jp/jmoo2002/>

- お問い合わせ先:
(問い合わせ先一覧は大会ホームページに掲載されています)

■大会全般■:
(青少年セミナー、展示、予稿集バックナンバー請求等)
合同大会運営機構 事務局
〒133-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学理学部新 1 号館 719 室
Email: office@epsu.jp
Fax: 03-5800-6839

■各種登録システムサポート■:
(電子投稿に関する質問。どうしても電子投稿の手段が確保できない場合も)
Web システム登録センター
〒530-0001 大阪市北区梅田 2-4-9
サンケイビル本館 7 階
株式会社ジェイコム内
E-mail: reg@epsu.jp
Fax: 06-6456-4105
月～金 9:30 ~ 18:00(祝日を除く)

§ 1. 1 各種の登録

以下の登録は全て大会ホームページから行って下さい。

- ①個人情報登録
- ②参加登録 (事前申込)
- ③予稿集原稿投稿 (講演申込)
- ④宿泊予約
- 参加される方は全員①, ②が必須です。②を行うためには, 前もって①が必要です (ただし, 既に登録済の方は再度行う必要はありません)。事前申込は当日受付 (当日登録) より料金がお安くなっていますので, お勧めいたします。
- 講演申込をされる方は①, ②に加えて③を行って下さい。共著の場合は, 共著者についても①が必要ですのでご注意ください。
当日発表される方も参加登録が必要です。
- 会場の青少年総合センターへの宿泊を希望される方は, ①, ②に加えて, ④を行って下さい。

§ 1. 2 住所変更

プログラムおよび予稿集 CD-ROM は, 参加登録申込者のみに 5 月 20 日頃迄に発送される予定です。転勤・卒業等で住所変更が生じた方は, Web 上の「個人情報登録」にて, 住所変更手続きを行って下さい。

§ 1. 3 保育希望の方へ

1-6歳児の託児サービス(利用時間に応じて実費負担)をご希望の方は以下のアドレスまで、電子メールでご連絡下さい。0歳児のいらっしゃる方、就学児童をお連れの方なども別途ご相談に応じます。

高田 淑子
宮城教育大学
〒980-0845 宮城県仙台市青葉区新巻字青葉
E-mail: toshiko@miyakyo-u.ac.jp

§ 2 セッション案内

●講演要旨の投稿は、1～2月中に合同大会ホームページ(§1参照)上で行って下さい。その際、照明や採光の関係で暗くならないためスライドを使用できないセッション会場がありますので、ご注意ください。

「合同大会ホームページ」にセッション一覧リストが置かれておりますのでご参照下さい。尚、それぞれのセッションについての問い合わせは、ホームページにあります各セッションの連絡先へお願いします。

●プログラム編集作業

3月上旬に行われます。代表コンピーナーの方にご協力をお願いすることがありますので、連絡が取れますよう日程のご調整をお願いします。又、期間中ご不在の場合は代理の方をプログラム委員会(pcom-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp)へ予めお知らせ下さい。

■2002年大会開催セッション一覧■

(大記号・分類名) (短縮名)

Uユニオン

21世紀の地球惑星科学
地球惑星科学の新しい概念と方法
宇宙科学と宇宙開発

B地球生命科学

生命・水・鉱物相互作用
アーキアンパーク計画

C地球化学

固体地球化学・惑星化学

D測地学

重力・ジオイド
測地学一般
地殻変動
GPS
衛星重力ミッション
GPS気象学

E地球電磁気学 太陽圏

宇宙プラズマ
地球内部電磁気学
地磁気・古地磁気
磁気圏電離圏結合
宇宙天気
地震電磁気現象
CAWSES

G地質学 放射性廃棄物

レオロジーと物質移動
地域地質と構造発達史
堆積
長期火成活動と火山発達史

断層レオロジーと地震発生

ラウ・ハブル

H水文・陸水・地下水学

同位体水文学
海水・地下水相互作用
水循環水環境

I地球内部科学 超高压地球科学

Jジョイント 地球流体力学

情報地球惑星科学
宇宙・惑星観測技術
電離圏・熱圏
大気圏・熱圏下部
変形岩・変成岩
地球年代学
活断層と古地
オフィオライト
岩石・鉱物・資源
地下温度構造・熱過程
CO2固定

リソスフェアの構造と物性

惑星地球システム

惑星リモセン

地殻浅部の流体移動と物性

キッチン地球科学への招待

地学教育

地震発生帯掘削

付加体から震源域物質へ

ハワイホットスポット

K岩石・鉱物学 深成岩・マグマ

鉱物物理化学

サブファク

衝撃変成作用

L地球環境・気候変動学

古気候・古海洋
バイカル湖と地球環境変動
北太平洋高緯度の古海洋学

M地球惑星圏学 磁気圏物理

P惑星科学 惑星科学

宇宙惑星固体物質

惑星表層02

火星共同観測

水星とその周辺環境

Q第四紀学 第四紀

S地震学 地震に伴う諸現象

地震発生の物理

地震活動

強震動・地震災害

地震の理論・解析法

地震計測・処理システム

地震予知

地震一般

地盤構造・地盤震動

震源過程・発震機構

地殻構造

強震動予測と地下構造

津波堆積物

地震予知：社会と科学

地震波トモグラフィー

T地球惑星テクトニクス・ダイナミクス

テクトニクス

V火山学 活動的火山

合同大会のお知らせ

マグマシステムと噴火
雲仙火山
非常常流体力学と火山爆発
Y 防災・応用地球科学
地質ハザード・地質環境

§ 3 個人情報登録

合同大会では、個人情報登録によって、ID 番号を取得していただいております。ID 番号は各種登録、照会に必要です。登録は無料ですので、「合同大会ホームページ」（§ 1 参照）より行って下さい。

●個人情報登録と個人情報 ID 番号

*まだ個人情報登録されていない方(共著者を含む):

まずは「合同大会ホームページ」の『個人情報登録』にてご登録を行って、「個人情報 ID 番号」を取得して下さい。

*既に個人情報登録をされて ID 番号を取得している方:

ID 番号は今年度も有効ですので再登録は必要ありません。

*所属、身分、Email アドレス等登録内容が変わった方:

『個人情報登録』において個人情報変更を必ず行って下さい。情報が古いままですと重要な大会情報、郵便物がお届けできなくなります。

*ご自分の ID 番号やパスワードを忘れた方:
『個人情報登録』の「各問い合わせ」にアクセスして問い合わせできます。

登録された個人情報は、個人情報 ID 番号によって参照され、参加登録、予稿集原稿投稿、宿泊予約に利用されます。この際、講演者だけでなく共著者も個人情報 ID 番号の登録が必要です。共著者の個人情報 ID 番号が登録されていない場合は、予稿集に共著者名が載らないこととなりますのでご注意ください。共著者がすでに個人情報登録を済ませている場合は、ID 番号を「合同大会ホームページ」にて検索できます。

■個人情報登録のために必要な情報:

- ・氏名(漢字, カタカナ, 英語) 姓と名別々に
- ・所属学会(複数選択式)
- ・所属機関名(漢字, カタカナ, 英語)
- ・所属機関名略称(漢字, 英語)(表示用)
- ・所属機関住所(漢字, 英語)
- ・身分(学生, 一般 選択式)
- ・TEL, FAX, E-mail

これらのデータは、次年度以降の合同大会への各種登録の基礎データとして保存される予定です。

§ 4 参加登録, 予稿集原稿投稿, 宿泊予約 (料金)

お申し込みいただいた全ての費用のお支払い方法は「郵便振り込み」です(当日登録は会場にて現金)。参加費, 予稿集原稿投稿費, 宿泊費が一括請求されます。Webにてお申込み後, 郵便振り込み用紙が4/10頃までに郵送されます。振込み期限4/26をお守

りください。

校費扱いにつきましては財務担当(中村 電話 03-5841-4591)へお問い合わせ下さい。

§ 4.1 参加費用

		受付 開始日	受付 締切日	料金	方法
事前 申込	一般	2002/ 1/10 (木)	2002/ 3/29 (金)	8,000 円	Web 申込 のみ
	学生			5,000 円	
	一日 券		2002/ 5/20 (月)	4,000 円	
当 日	一般	-	-	12,000 円	大会当 日直接 会場受 付にお 越し下 さい
	一日 券	-	-	6,000 円	
学部生と 70 歳以上の方 (発表をしない場合)			-	無料	

§ 4.2 予稿集原稿投稿 (発表申込) 費用

		受付 開始日	受付 締切日	料金	方法
予稿集 原稿 投稿		2002/ 1/10 (木)	2002/ 2/20 (水)	1,500 円	Web 申込 のみ
			2002/ 2/28 (木)	3,000 円	
図掲載 (希望者 のみ)		(基本的に論文 と同時受付)		1,000 円	郵送
				検討中	Web 申込

§ 4.3 青少年総合センターへの宿泊, 費用

大会会場の青少年総合センター附属の宿舎への宿泊予約が可能です。但し、確保しました部屋数には限りがありますので、申し込み数が定員を超えた場合には締切日前に締め切ることもありますのでご了承ください。宿泊予約はホームページ上でのみ可能です。

チェックインは5/26,27午後5:30~午後7:00まで, センター棟 103 号室(大会受付)で、行って下

さい。遅れる場合は、午後6:00までに大会受付（オリンピックセンター代表TEL03-3467-7201）に連絡をするか、午後6:00以降はセンター棟103号室（大会受付）前の掲示に従ってください。

部屋はすべて個室（男女別）ですが、ビジネスホテルタイプ（バス・トイレ付き）とユースホステルタイプ（バス・トイレ共同でベッドメイキングは利用者が行なう）の2種類があります。

（全コース 朝食なし）	受付 期間	料金	方法
ユース 5泊コース (5/26-31)	2002/ 1/10 (木) ~ 2002/ 3/29 (金)	13,500 円	Web 申込 のみ
ユース 4泊コース (5/27-31)		11,000 円	
ビジネス 5泊コース (5/26-31)		23,500 円	
ビジネス 4泊コース (5/27-31)		19,000 円	

§ 4.4 取消と取消手数料

●振込後、参加を取り消されても予稿集原稿登録料の返金はありませんので、あらかじめご了承ください。

		連絡期日	キャンセル 料金	連絡 先	連絡 方法
参加 登録	事前 申込 分	2002/5/6 (月)迄	1000 円+ 振り込み 手数料	①	Email 又は FAX
		2002/5/7 (火)以降	不可(返金 なし)		
予 稿 集 投 稿	締 切 前	2002/ 2/28 (木)迄	-	-	Web にて
		2002/3/15 (金)迄	-		
	締 切 後	2002/3/16 (土)以降	不可(返金 なし。CD- ROM作成 のため)	②	Email 又は FAX

		連絡期日	キャンセル 料金	連絡 先	連絡 方法
宿 泊 予 約	入 金 なし	2002/5/6 (月) 入金 確認出来な い方	なし 自動キャンセル（予約者 へWebシステム登録セン ターより通知後）		
		2002/5/19 (日)迄	1000円+ 振り込み 手数料	③	Email 又は FAX
		2002/5/20 (月)以降	全額(返金 なし)		

●連絡先：

- ① FAX:03-5800-6839 Email:reg@epsu.jp
- ② FAX:03-5800-6839 Email:abs@epsu.jp
- ③ FAX:03-5800-6839 Email:lodge@epsu.jp

§ 5 運営機構からのお知らせ

§ 5. 1 運営機構ホームページのご案内

運営機構のホームページを立ち上げております。運営機構のことだけでなく、2002年合同大会のお知らせ、準備状況、各学会へのリンク、地球惑星科学関連の専攻、学科、研究所へのリンク、連絡会のお知らせ、等を掲載していきます。

URL <http://www.epsu.jp/>

§ 5. 2 合同大会当日の受付時間について

合同大会期間中の受け付け時間、場所は以下の通りに開設する予定です。

■当日参加受付

大会前日 5/26 (日) 受け付けしません
大会期間中の受付 5/27 (月)～5/31 (金)
AM 8:30～PM 3:00 センター棟 103号室

■宿泊施設のチェックイン

5/26(日)27(月) PM 5:30～PM 7:00 センター棟 103号室

§ 5. 3 団体展示・書籍出版展示

合同大会では、国際交流棟1Fレセプションホールにて、研究団体・企業・出版社などによる研究紹介・書籍・機器などの展示ブースを設けております。様々な形で自由にご利用頂き、有効な情報交換の場としてご活用ください。ご利用希望の方は、事務局へご連絡下さい。詳細（申し込み要綱）をご案内いたします。尚、お申し込みは3月末日（最終締切）まで、スペースに限りがございますので、お早めにお申し込み下さい。詳細は、後日ホームページ上に案内掲示予定です。

§ 5. 4 合同大会会場における会合申込み

会合・集会を行う団体の部屋使用希望の申し込み

合同大会のお知らせ

は以下の5項目を明記の上、4月末日までに運営機構総務局2002年会合係(E-mail: meet@epsu.jp)までメールにてお願いいたします。使用料は下表の通り。尚、希望に沿えない場合があります。(特に食事可能な部屋は2つしかありません。)

■お申し込み内容■

- 1) 会合名称
- 2) 申込み責任者とそのメールアドレス
- 3) 希望する部屋の大きさ(下表参考)
- 4) 希望する時間(開始・終了時刻)

- 5) 食事の希望有無(有の場合は弁当数)
- 部屋使用料■
- | | |
|--------------|----------------|
| 定員 160人越え | \10,000 |
| 定員 160人まで | \7,000 |
| 定員 80人 | \4,000 |
| 定員 40人 | \2,000 |
| 定員 20人 | \1,000 |
| 定員 20人(食事可能) | \2,000 (部屋代のみ) |

部屋の利用時間は、1コマの単位(1.5時間を目安)とします。

(以上に関わる最新の情報は大会ホームページにてご確認ください)

◆ Barbados 2002 - International Conference on "Quaternary Sea Level Change" with Field Trips and Fourth Annual Meeting of IGCP Project 437 "Coastal Environmental Change During Sea Level Highstands"

(First Announcement and Call for Papers)

INQUA Commission on Coastlines / IGU Commission on Coastal Systems

26 October - 2 November 2002
Barbados (W.I.)

The Universities of Cologne and Bamberg, Germany, invite coastal researchers on behalf of IGCP Project 437 "Coastal Environmental Change During Sea-Level Highstands" to the International Conference "BARBADOS 2002 - Quaternary Sea Level Change" to be held on Barbados, Worthing, Asta Beach Resort from October 26th to November 2nd, 2002.

BARBADOS 2002 is a multi-disciplinary international conference for scientists focusing on the field of Quaternary sea level change. Topics include the dating of Pleistocene and Holocene marine terraces and coral reefs; the reconstruction of palaeo sea level curves; fundamental studies on sea level, isostasy, and tectonics; and advances in techniques and applications for sea level analysis. Paper and poster presentations will give both an overview and detailed information on latest advances and diverse applications related to the study of sea level change during the Quaternary.

Integral to the conference is a three-day field trip during which important localities on Barbados will be visited. This field trip will provide an overview of the interplay of tectonics and coral reef tract formation on Barbados during the Quaternary. This field trip furthermore provides the opportunity to visit some "classic" sites of marine Quaternary geology, including Barbados I, II, and III. A field guide publication will introduce the final results of a long-term research project on the geomorphologic mapping and

ESR and TIMS-U dating of fossil coral reefs on Barbados.

■ GENERAL INFORMATION

Attendance and Registration Deadlines

People interested in attending the conference and/or the field trip should complete a copy of the form attached to this document. Forms may be returned by e-mail by February 15, 2002. You will receive a second announcement with further information including a registration form by e-mail in mid March 2002. A detailed package of information will be sent to you in June 2002. Details on conference registration, content, and contact information may be accessed through the conference web site as of February/March 2002.

Conference Location

The conference will be held at the ASTA BEACH RESORT (<http://www.asta-beach.com>) in Worthing located at the southwestern coast of Barbados (W.I.). The Asta Beach Resort is within a 30-minute drive to the Grantly Adams International Airport and a 15-minute drive to Bridgetown, the capital of the island.

Barbados is located approx. 80 kilometers east of the main chain of the Leeward and Windward Antilles. The Island of Barbados is approx. 31 by 24 kilometres large and covers an area of 430 square kilometers. Approx. 270,000 people inhabit Barba-

dos and make the island to one of the "big four" in the Caribbean. A cap of Quaternary coral limestone covers most of Barbados. Several steep inland cliffs or fossil coral reef ridges parallel the coastline. These fossil coral reefs are remnants of old shorelines, which formed during the islands gradual emergence from the sea. Barbados offers an abundance of white sandy beaches and a pleasantly rolling countryside with sugar cane fields, brightly painted villages, and open pastures. The climate of Barbados is tropical, with a mild breeze and lots of sunshine all year round (approx. 3,000 hours per year). Average temperature is 80°F (27°C) and the warm sunshine is moderated by steady northeast trade winds. Rain usually comes in quick showers. Hurricane season lasts from June through October, however, hurricanes usually pass by Barbados to the north. The last major hurricane affected Barbados in 1955.

Barbados has a modern international airport with direct flights to North and South America and Europe. International flights from other continents to Barbados may require a stopover in Miami, FL (USA).

■ REGISTRATION FEES

Full registration (professionals)

approx. US\$ 190

Student registration

approx US\$ 130

Guests

approx. US\$ 110

(includes conference reception, three lunches, and conference dinner)

Registration deadlines will be announced in the 2nd announcement in to be sent out in March 2002. Conference fees increase by 10% for late registration.

The following events are included in the registration fees:

- Registration
- Conference Proceedings
- three lunches
- six coffee/tea breaks
- Pre-conference reception
- conference dinner

■ FIELD TRIP FEES

Professionals/Guests

approx. US\$ 220

Students

approx. US\$ 150

Field trip fees include transportation, lunches/refreshments, a field guide publication, and a map.

■ PROCEEDINGS

Proceedings of both paper and poster presentations may be eligible for peer-reviewed publications in the Journal "Quaternary International". The official language for both the conference and the proceedings is English.

■ ACCOMMODATION

Participants who intend to stay at the conference hotel (ASTA BEACH RESORT) are responsible for their own reservations. A number of rooms has been reserved for conference attendees by the organizers. These rooms are available for a reasonable conference rate (US\$ 110 for a double-bed room). For reservations, visit the ASTA BEACH RESORT web site at <http://asta-beach.com> and identify the "Barbados 2002 conference, Prof. Dr. Ulrich Radtke, Cologne, Germany" as a reason for your stay. For inquiries or reservations, contact the hotel directly and ask for Mrs. Gabriele Cummins. You may call the hotel (+1-246-427-2541), fax your reservation (+1-240-255 8177) or e-mail your requests (vacation@asta-beach.com).

In addition, the organizers have reserved several vacation rentals for the time period October 26 to November 2, 2002. It takes between five to ten minutes to take the bus from there to the conference hotel. Vacation rentals cost approx. US\$ 25 per day per person for a double bedroom. Each beach-front vacation rental accommodates four people and consists of two bedrooms, a living room, a kitchen, and a bathroom. Due to the limited number of apartments, conference attendees are recommended to share accommodation. You may reserve these apartments through the conference organizer, Prof. Ulrich Radtke, University of Cologne, Germany.

■ FINANCIAL ASSISTANCE

A limited number of conference-fee grants may be provided for qualified students and/or attendees from developing countries, who are unable to receive funding from their own institutes. Requests may be directed to Prof. Dr. Colin Murray-Wallace, Project Leader IGCP Project 437 (e-mail: colin_murray-wallace@uow.edu.au School of Geosciences, University of Wollongong, NSW, 2522, Australia).

■ ORGANIZERS / POINT OF CONTACT

Prof. Dr. Ulrich Radtke,
e-mail: u.radtke@uni-koeln.de
Institute of Geography
Phone: ++49-221-470-2541 or -5674

University of Cologne (Köln),
Fax: ++49-221-470-5124
D-50923 Köln (Cologne), Germany

D-96047 Bamberg, Germany

We are looking forward to welcoming you in Barbados!

Prof. Dr. Gerhard Schellmann
Geographical Institute,
University of Bamberg
Am Kranen 1

Ulrich Radtke, Köln
Gerhard Schellmann, Bamberg

Barbados 2002 - International Conference on "Quaternary Sea Level Change"
with Field Trips and Fourth Annual Meeting of IGCP Project 437 "Coastal Environmental Change During Sea Level Highstands"

INQUA Commission on Coastlines / IGU Commission on Coastal Systems

Barbados 2002 Registration Form

Last Name: _____ First Name: _____ Title: _____

University/ Institution: _____

Address: _____

State/Province: _____ Postal Code: _____

City: _____ Country: _____

Phone: _____ Fax: _____

E-mail: _____

! yes ! no I would like to receive the second announcement*.

(*Please include your e-mail address.)

! yes ! no I would like to attend BARBADOS 2002.

! yes ! no I would like to give a presentation in form of a

! poster (number of poster submissions: _____)**.

! paper (number of paper submissions: _____).**

(**Presenters may present both a poster and a paper.)

Please complete the registration form and check the appropriate boxes. Please attach the completed form to an Email (WORD Document, Text file, RTF file) and mail it to Prof. Dr. Ulrich Radtke (u.radtke@uni-koeln.de) at the University of Cologne, Germany, by February 15th, 2002. You may also fax your conference registration to us (++49 221 470 5124).

◆ 第1回高精度14C年代測定研究委員会開催のお知らせ

日本第四紀学会高精度14C年代測定研究委員会

第四紀学会の研究委員会の一つとして、2001年1月27日開催の評議員会で承認されました「高精度14C年代測定研究委員会（2000年度～2003年度の4年間）」の第1回会合を下記の日程で開催致します。今回は、話題提供をお願いした後、14C年代から暦年代への較正について、用語の統一を図ると共に、較正データの表示法の意味の理解などについて参加者間で議論を深める予定です。同研究委員会委員、第四紀学会会員はもちろんのこと、非会員で14C年代測定及び14C年代の暦年代較正に興味をお持ちの方は、ご出席いただきますようにご案内致します。

日時：2002年3月3日（日）10:30～17:00

場所：日本大学文理学部8号館（東京都世田谷区桜上水）

オーガナイザー：中村俊夫、辻 誠一郎

主催：日本第四紀学会高精度14C年代測定研究委員会

プログラム：

1. 高精度14C年代測定と14C年代の暦年代較正
中村俊夫（名古屋大学年代測定総合研究セン

ター）

2. 遺跡・遺物の高精度年代測定と問題点 辻 誠一郎（国立歴史民俗博物館）
3. 縄文時代6期区分の14C年代と較正暦年代 一見通しと問題点 谷口 康浩（國學院大學）
4. 縄文時代の高精度編年に向けて—年輪年代学からの取り組み— 木村 勝彦（福島大学）
5. 総合討論 「14C年代の暦年代較正、表記法の統一に向けて」

今後はさらに以下のようなテーマを取り上げる予定です。

1. 暦年較正の取扱と普及について
2. 暦年較正データの蓄積状況について
3. 炭素リザーバー効果のデータの蓄積—特に海産物試料の暦年構成における炭素リザーバー効果の取扱について

問い合わせ先：中村俊夫（名古屋大学、nakamura@nendai.nagoya-u.ac.jp, Tel:052-789-3082）・辻 誠一郎（国立歴史民俗博物館, Tel:043-486-4240）

◆ 文部科学省科学技術振興調整費「地震災害軽減のための強震動予測マスターモデルに関する研究」シンポジウムのお知らせ

1995年兵庫県南部地震を契機として、これまでさまざまな機関で種々の方法により地震災害軽減をめざした全国規模の調査・観測・研究が実施されてきています。これらの結果を地震災害の軽減や耐震設計・性能保証設計に有効活用していくには、活断層や沈み込み帯で地震が発生するとした場合にどこでどのような強さの地面の揺れが生ずるのかを教えてください。強震動予測の枠組みづくりが早急に必要となっています。また、強震動評価手法の確立のために必要とされる情報とは何かを早急に明らかにし、その成果を上記の調査研究に反映させていくことが必要です。このような背景を受けて、我々は平成12年度より科学技術振興調整費・総合研究「地震災害軽減のための強震動予測のマスターモデルに関する研究」（研究代表者：京都大学防災研究所・入倉孝次郎）を開始しました。

今回、本研究の趣旨説明、研究計画とこれまでの研究成果の概要発表、及び関連研究の招待講演を含むシンポジウムを以下のように企画しました。

強震動予測に関連する地質学・地震学・地震工学・地盤工学・耐震工学研究者にご参加いただけますよ

うご案内申し上げます。

主催：「地震災害軽減のための強震動予測マスターモデルに関する研究」研究グループ

日時：平成14年3月22日（金）9時30分～17時20分

会場：フォーラム8（東京都渋谷区道玄坂2-10-7 新大宗ビル）

プログラム：研究代表者主旨説明、研究成果発表、招待講演など

（課題のあらましについては文部科学省科学技術振興調整費ホームページ http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/chousei/index.html を、プログラムの詳細については本研究課題ホームページ <http://sms.dpri.kyoto-u.ac.jp/sta.html> を参照ください。）

参加費：無料

定員：200名

申し込み方法：当日、会場にて先着順

◆ International Conference on Tidal Dynamics and Environmental Response (First circular)

8th – 13d August, 2002
Hangzhou, China

The conference will be held in the famous tidal bore Estuary of Hangzhou Bay, China, for on site discussion and exchange idea to improve scientific research and engineering project on the powerful tidal environment and coastal evolution.

■ Major Topics

Tidal bores and their effect on material transport
Sediment transport associated strong tidal currents and high suspended sediment concentrations
Estuarine large-scale bedform formation and evolution
Sedimentation and spatial-temporal variations of estuarine tidal flats
Human impact on the estuarine tidal environments

■ Conference Language

English

■ Abstraction Submission

Abstract should be submitted by 10th July, 2002

Abstract should sent to the Organizing Committee via postal or electronic mail, and should include the following information:

- (1) Title of the paper
- (2) Name and affiliation of the author(s)
- (3) Correspondence address (for both post mail and e-mail)
- (4) Abstract text (no longer than 500 words)
- (5) Keywords (maximum 6 words)

■ Field Trip

Field trip will be arranged by the Organizing Committee, to visit the town of Yanguan (to observe the Qiantang River tidal bores) and the Zhoushan Archipelago (to observe pockettidal flats on rocky coasts). The field trip fee is 150 USD. Yanguan is situated on the northern bank of Hangzhou Bay; it is traditionally a location for observing tidal bores. The Zhoushan Archipelago is located in the east of Zhejiang Province; the numerous islands here are a part of the many islands (around 2000 in total) along the Zhejiang

coastlines. The sediment accumulated in the areas between the islands, forming a unique sedimentary environment.

■ Registration

The registration fee is 200 USD

■ Organizing Committee

Chairperson

Dr. Ying Wang, Professor of Nanjing University, China

Vice-Chairpersons

Professor Shu Gao, Nanjing University, China
Professor J. T. Wells, University of North Carolina, USA

Secretary General

Professor Zhong-yuan Chen, East China Normal University, China

Vice Secretary General

Professor Xiao-dong Zhu, Nanjing University, China

Members

Professor Da-kui Zhu, Nanjing University, China

Professor Zuo-sheng Yang, Qingdao Ocean University, China

Professor Cong-xian Li, Tongji University, China

Professor Yan Li, Second Institute of Oceanography, SOA, China

Professor Ping-xing Ding, East China Normal University, China

Professor Shao-ming Pan, Nanjing University, China

Advisory Committee

Professor Guang-ding Liu, Institute of Geology and Geophysics, Chinese Academy of Sciences, China

Professor Ji-lan Su, Second Institute of Oceanography, State Oceanology Administration, China.

Professor Yun-shan Qin, Institute of Oceanology, Chinese Academy of Sciences, China

Professor Ji-yu, Chen, East China Normal University, China

■ Sponsors

Ministry of Education Key Laboratory for Coast and Island Development, Nanjing University

The Society of Oceanography of China

■ Supporters

Second Institute of Oceanography, SOA,
China

■ Correspondence

Correspondence should be mailed to:

Professor Zhong-yuan Chen
Department of Geography
East China Normal University
3663 North Zhongshan Road
Shanghai 200062, China
E-mail: Z.Chen@gislab.ecnu.edu.cn

Or:

Professor Ying Wang
Dean, School of GeoScience
Nanjing University
22 Hankou Road
Nanjing 210093, China
Tel: +86-25-3593736
Fax: +86-25-3595387
Email: wangying@nju.edu.cn

Professor Xiao-dong Zhu
Department of Geo-ocean Sciences
Nanjing University
22 Hankou Road
Nanjing 210093, China
E-mail: xdzhu@nju.edu.cn

Professor Shu Gao
Department of Geo-ocean Sciences
Nanjing University
22 Hankou Road
Nanjing 210093, China
E-mail: shugao@nju.edu.cn

■ The City of Hangzhou

Hangzhou is well-known for its West Lake, with all of the beauty one could see in the Chinese cities to the south of the Changjiang River. The city is located in the bay-head area of Hangzhou Bay and the Qiantang River Estuary, which is characterized by large tidal range and tidal bores. Hangzhou has its own International Airport and it takes about an hour from the airport to the city center. Alternatively, the city can be approached from Shanghai; by train it takes some 2 hours from Shanghai Railway Station to Hangzhou.

第四紀研究在庫状況

表紙が新版になりました巻号よりの特集号在庫状況は以下のとおりです。

第四紀研究 Vol. 31 No. 5

『黒潮圏の第四紀古環境』 特集号, 在庫数
0冊…在庫はありません。

第四紀研究 Vol. 33 No. 5

『東アジアと日本の遺跡をめぐる古環境』 特
集号, 在庫数 212冊

第四紀研究 Vol. 34 No. 3

『高精度年代測定と第四紀研究』 特集号, 在
庫数 564冊

第四紀研究 Vol. 35 No. 3

特別講演 『第四紀学と地震防災』. 特集 『平
野の自然と人類史—越後平野を例にして—』,
在庫数 231冊

第四紀研究 Vol. 36 No. 5

『最終氷期の終焉と縄文文化の成立・展開』
特集号, 在庫数 231冊

第四紀研究 Vol. 37 No. 3

『東アジアから西太平洋へ—陸・海・ヒトのテ
レコネクション—』 特集号, 在庫数 191冊

第四紀研究 Vol. 38 No. 6

『相模湾周辺の地震・火山とテクトニクス』
特集号, 在庫数 206冊

第四紀研究 Vol. 40 No. 6

『21世紀の年代観—炭素年から暦年へ』 特
集号, 在庫数 443冊

特集号定価は4,200円(税込)となっております。
通常号は2,100円(税込)

下記でお取扱いしております。購入希望先は下
記をご案内いただけますと幸いです。

財団法人 日本学会事務センター

事業部・海外部 (学協会刊行物頒布業務)

〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9 学
会センターC21

TEL.: 03-5814-5811 / FAX.: 03-5814-5822

<http://www.bcasj.or.jp/sub/index.html>

E-mail: sub@bcasj.or.jp

◆ 日本第四紀学会 2002年大会 (第1報) (再録)

一般研究発表・総会・シンポジウム: 8月23日～25日 場所: 信州大学 (松本市)
普及講演会: 8月24日 場所: 松本市Mウイング (予定)
野外見学会: 8月26日

◆ 日本学術会議第18期第4回
第四紀研究連絡委員会 議事録

日時：2001年10月30日（火）13：30～17：00
会場：日本学術会議会議室
出席：町田 洋 岩松 暉 赤羽貞幸 小泉格
坂上寛一 真野勝友 小野 昭
欠席：海津正倫 大村明雄 齊藤享治 斎藤文紀
中村俊夫 吉川周作（順不同敬称略）

報告

会議に先立って、去る7月29日に逝去された米倉伸之氏に代わって岩松暉氏が地質科学総合研連から選ばれた学術会議会員に就任し、第四紀研連委員を兼ねることになったことの紹介があり、自己紹介があった。

1. 学術会議（岩松暉報告）：10月15日に開催された、日本学術会議の連合部会と第4部会の報告がおこなわれた（資料あり）。特に研連見直し問題については、新しい研連を作るために見直しは避け得ない状況である。そのために、全部の研連を一括廃止し、復活要求の理由書を2002年1月7日までに提出しなければならない段取りであることが報告された。本研連委員長が対応することとなった。
2. 研連主催シンポジウムを2001年7月27日に実施した。「日本人と日本文化の源流－日本先史時代の自然と文化的環境－」
3. 日本第四紀学会鹿児島大会2001年8月の報告。INQUA（2007年）招致拡大委員会が開催された。またそこでは、2006年が日本第四紀学会の50周年記念に当たるのでそれとの関係が話題となった。
4. 2001年9月16-21日に札幌で第7回国際古海洋会議が開催された。参加者394人、うち日本人は199人であった。テロ事件の影響でアメリカからの参加者が少なくなった。

議題

1. 研連再編問題

第四紀研連をめぐる状況としては、1) 科研費細目が無いこと、2) 学術会議会員推薦研連でないことの2点はマイナス要因ではあるが、3) 複数学会から推薦された委員が出ていること、4) 国際対応の組織であることの2点はプラス要因であるという議論があった。

しかし2)については現在第四紀研連委員は、日本第四紀学会、地形学連合、地団研から推薦されているが、他に比べて第四紀学会推薦委員が多すぎるので、さらに推薦学会を増やし、委員の半数は日本第四紀学会以外から推薦されている形にすべきでないか等議論された。委員長が締め切り日までに新名称（例えば「地球環境学」など）を含め設置申請書を提出することとした。〈後記：なおこの件に関し、12月19日に第5回研連委員会を開催し、審議した。〉

2. 研連主催または共催のシンポジウムの計画

次の二つが上がった。

- 1) 小野 昭委員から次の原案が示され了承された。
日本第四紀学会・日本学術会議第四紀研究連絡委員会共催 2002シンポジウム

テーマ「旧石器時代研究の新しい展開をめざして－旧石器研究と第四紀学－」

日時 2002年2月23日（土）

場所 東京都立大学講堂内小ホール

時間 10：30～17：10まで

10：30 開会挨拶 小野 昭（日本第四紀学会幹事長）

10：40～11：25 基調報告1：御堂島 正（かながわ考古学財団）「遺跡形成論から見た堆積物としての遺物」

11：25～12：10 基調報告2：五十嵐 彰（東京都埋蔵文化財センター）「型式と層位の相克－石器と土器の場合－」

12：10～13：10 昼食休憩

13：10～13：55 基調報告3：馬場悠男（国立科学博物館）「人骨の形態学的判断の信頼性と限界」

13：55～14：40 基調報告4：町田 洋（東京都立大学名誉教授）「遺物包含層の年代と環境」

14：40～15：00 休憩

15：10～17：10 総合討論 司会（小野 昭）

17：10 閉会挨拶 町田 洋（日本学術会議第四紀研究連絡委員会委員長）

- 2) 古土壌のシンポジウムを東京工業大学（大岡山キャンパス）を会場として、計画中であることが坂上寛一委員から紹介された。

3. INQUA2007年について

招致の検討段階から準備委員会への立ち上げを早急におこなう必要が議論された。町田 洋委員長から口頭で以下の諸点が重要である旨説明があった。

- 1) 準備委員会の構成と役割、2) INQUA大会をとおして日本の第四紀研究のレベルアップが実現するようにする、3) 準備委員の候補、4) 必要な費用の大枠と自前で集める費用額の概要について。

議論の結果、委員長が原案を作成することとし、ここでは準備委員会を立ちあげることを了承した。

4. 平成13（2001）年度、平成14（2002）年度代表派遣会議および代表派遣候補の推薦について議論した。

5. 11/14開催予定の地質学総合研連への対応は、小泉格委員が委員長の代理で出席することに決めた。

以上

（記録：小野 昭）

◆ 日本学術会議第18期第3回
地質科学総合研究連絡委員会 議事録

平成13年11月14日（水）13：30～17：00 日本学術会議

出席者：青木謙一郎，斎藤常正，岩松 暉，山中高光，野田浩司，田中 剛，公文富士夫，小泉 格（代町田），浦辺徹郎（代梶原）

1. 委員長の選出

米倉伸之委員長逝去により欠員であった委員長に、同氏の後任として学術会議会員に任命された岩松暉氏を選んだ。幹事は従来どおり。

2. 研連の見直しについて

青木会員から、学術会議第4部における「研連見直し作業」の進行状況について説明があり、ついで第4部所属の各研連に平成13年12月か14年1月に提出が求められる予定の「研連設置申請書」（研連設置の理由、目的、重要性、過去の活動状況、科研費審査委員候補者の推薦作業に関して当該研連が窓口となる分科・細目等と記載・報告する）の記入様式書の検討状況について報告があった。

さらに同会員から、当該研連は学術会議第13期に、地質科学関連研連の委員長の調整機関として発足し、各研連から推薦された科研費補助金審査委員候補者の最終銓衡などに大きな役割を果たしてきたという経過説明があった。

これら背景説明をうけて、地質科学総合研連の第18期の活動課題、さらに第19期を目指した、当研連が地質科学諸分野に果たすべき役割について議論した。その過程で、以下のような意見が表明された。
○地質科学分野を代表する各研連の現状を固守するのではなく、“Geological Science”全体を、それぞれの研連がどう代表するかという、全体構想を見直す必要があるのではないか。

○ひとつの案として、地質学研連と地質科学総合研連の役割を見直し、前者は現在進行中のOD-21(深海ドリリング計画)やIFREE(固体地球統合フロンティア研究所)で代表されるようなPure Geologyを主活動対象にし、後者は環境地質学(Environmental Geology)のような「人類全体が抱える問題の地質学的側面」を対象とするような活動にしてはどうか。

このような再編に際しては、地質科学総合研連と第四紀研連を合体し、必要とあればそれぞれを専門委員会としても良く、このことで定員22名をもつ研連活動が可能となることを評価すべきである。

○このような再編に関しては、現在「地質学研連」に委員を送っている応用地質学会、地下水学会等“環境地質学”に関連の深い学会、および「地質学研連」自身の意向をきくことが重要である。

○当然のことながら、このような検討と同時に、環境地質学（あるいは応用地質学）分野の科研費申請件数を増やす努力も必要である。

このような議論を、各研連に持ち帰り、さらに次回で検討をすすめることとした。早急に記載・報告が求められるであろう“研連設置申請書”については、これまでの活動の歴史を踏まえて、作成方を委員長に一任することにした。

3. 「JABEEへの取り組みの普及と審査報告会」の

共催

公文委員から、標記課題の報告会を平成14(2002)年5月27日(月)、日本学術会議講堂を会場に、地質学研連、地質科学総合研連、地質科学関連学協会連合等との共催で開催してはという提案があり、開催する方向で了承した。

4. 次回開催日：平成14年3月6日(水)13:30より。

◆ 第18期日本学術会議古生物学研究連絡委員会第4回議事録

日時：2001年10月22日(金) 13:30～17:00

場所：日本学術会議 第6会議室

出席：斎藤 常正会員、野田 浩司、小泉 格、長谷川 善和、小笠原 憲四郎、加瀬 友喜、北里 洋、瀬戸口 烈司、西田 治文各委員

欠席：大野 樹生、辻 誠一郎、八尾 昭各委員

学術課：中野事務官

報告事項

1. 前回議事録の承認

第3回議事録案が示され、原案通り異議無く承認された。

2. 学術会議報告(斎藤)

総会報告：

(連合部会)

1) 農林水産大臣から「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価について」の依頼があり、第6部(農学)委員が答申を作成し、学術会議に提出した。

2) 「データベースに関して新たに提案されている知的所有権(sui generis right)についての見解」という声明文を出した。SELER社が雑誌Scienceにヒトゲノム論文を掲載した際にデータを一部しか公表しなかったことに端を発する問題である。純学術活動に於いて知的所有権がどこまで認められるかという問いに対する見解。

3) 日本学術会議の自己評価

総合学術会議における議論を受けて、学術会議自己評価特別委員会が自己評価様式を作成した。内容は、社会のニーズ、政策・学術会議活動方針に照らして妥当かを評価しようというものである。

(第4部会)

1) 平成15年度科学研究費分科・細目表が示された。層位・古生物は、理工系、数物系科学、地球惑星科学、層位・古生物学となる。キーワードは、平成14年度と同じである。

2) 学術会議からの代表派遣の推薦

平成13年度代表派遣の追加推薦の依頼があった。テロ等で実施出来なかった派遣が出たため。また、平成14年度の代表派遣の推薦を11月30日までに行う。

3) 研連の見直し

時代の変化と共に新領域や学際的な分野が生まれ
ており、旧来の学問の枠組みがそのままよいか問
題である。時代の要請に応えた新研連を作るため
にも現在の研連の見直しは避けられないとの部会
長の見解が示された。全研連を原則的に一括廃止
することとし、各研連は存続の意義を記載した申
請書を12月17日までに提出することにした。科
研費分科・細目に対応しているか。学術会議会員
をだしているか。国際対応があるか。などを総
合的に評価して、存続させるかどうかを決めるこ
とになる。

4) Jaicows (女性科学研究者の環境改善に
関する懇談会) の提案の一つに、「博物館研究者
に科研費を」という要求が書かれている。文科
省が学術研究団体として指定・認定すれば科
研費を申請することができるようになる。

3. 研連の見直しについて

第4部会で提案されている研連の見直しにつ
いて、岩松 暉会員から地球科学総合研連のメン
バーが集まって検討してはどうかとの提案があ
る。古生物研連としては、当然存続すべきであ
るとの認識に立ち、委員長を中心に12月17日
に向けて申請書を作成することとした。

4. 平成15年度科研費審査委員の推薦について

研連委員長名で古生物学会、地質学会、第
四紀学会に推薦依頼をし、そのリスト中から
研連が選考することとした。推薦に当たっては、
分科・細目のキー

ワードが重要になる。

5. 博物館学芸員などの科研費申請資格の現
状と今後の対応について自然史学会連合で行
った地域博物館学芸員へのアンケート結果の
まとめ(千葉中央博、森田利人氏)が紹介され
た。各学芸員ごとに置かれている立場が異な
っているので一括して取り扱うのは難しいも
の、「地方博物館の研究環境を整備する必要
があること」、「個人の資格でも申請でき
るようにするために科研費申請資格条件を現
状に合うように見直すこと」などの提案をも
って、文科省担当部に働きかけることとした。

6. 古生物タイプ標本について(小笠原)

第1巻が完成し、日本古生物学会で販売さ
れた。また第2巻は現在編集集中であり、刷
り上がり550ページを予定している。平成14
年度科研費刊行助成に申請を行う。第3巻は
平成14年秋を目処に編集する。

7. その他

第17回国際生物学賞は、古生物学者であ
るケンブリッジ大学名誉教授ハリー・ブラ
ックモア・ウィットントン博士に授与され
る。授賞式は12月3日、記念シンポジウム
は12月5・6日に京都大学にて行われる。

次回は平成14年3月4日(月)13:30から
の予定。
(小泉 格)

お知らせ

第四紀学会ホームページの URL が変わりました。新しい URL は次の通りです。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/QR2home.htm>

訂正

前号でお知らせした「2002年日本第四紀学会・日本学術会議第四紀研究連絡委員会共催シンポジウム」のプログラムの一部を以下のように訂正いたします。

- ・形式と層位の相克→型式と層位の相克
- ・人骨形態学的判断→人骨の形態学的判断

◆ 日本第四紀学会論文賞受賞候補者の推薦について

本賞は会誌「第四紀研究」に優れた論文を発表した会員の表彰を通じて、第四紀学の進歩と本学会の発展を図ることを目的としています。本賞は規定により、毎年、会員の皆様から自薦・他薦によって候補者を御推薦いただき、論文賞受賞候補者選考委員会において候補者の選考と受賞者の決定を行うことになっております。受賞者は6月末日までに決定され、8月に信州大学で開催される2002年度総会で表彰される予定です。

つきましては、下記を御参照の上、日本第四紀学会論文賞の受賞候補者を御推薦いただきますよう、会員各位にお願い申し上げます。なお、第四紀学会論文賞規定と同賞選考に関する内規は、第四紀通信 Vol.1(4)p.1-2, Vol.4(5)p.10, Vol.6(2)p.15に掲載されていますので、御参照ください。

記

1. 選考対象：「第四紀研究」第39巻（2000年）および第40巻（2001年）に掲載された、会員を筆頭者とする原著論文、短報、総説および特集号の論文
2. 推薦書類：推薦書類には、推薦者名（自薦を含む）、受賞候補者名、受賞候補論文名（巻号頁を明記）および推薦理由を記入する。
3. 推薦書類の提出先：
〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9 学会センター C21 内
日本第四紀学会 論文賞受賞候補者選考委員会
4. 推薦書類の受理期限
2002年3月31日（必着）

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀学会広報委員会 名古屋大学環境学研究科地理学講座
海津正倫 (e-mail: umitsu@lit.nagoya-u.ac.jp)

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 Phone: 052-789-2270

Fax: 052-789-2272

次号は2月下旬原稿締切、4月上旬発行予定です。

第四紀学会ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/qr/QR2home.htm> で、第四紀通信バックナンバーのPDFファイルを閲覧できます。